

私は二年になって初めてこの島前の企画に参加させていただきました。契機としては地域系のゼミに入り、少しでも多くの地域や現場に足を運び、どういった現状でどういった活動をしているのか自分の五感で感じ取り、座学では得られない、現場でしか学べないことをより多く学びたいと思ったためである。他にも単純に離島に行ったことがなかったため、行ってみたいという気持ちも大きくありました。

まず初めに島前中学校の中学三年生と交流授業を行いました。島前中学校は校舎を新しくしたばかりで、小学校と中学校が繋がっていて想像していたものよりとても活気の溢れた学校でした。生徒の第一印象としてはとても純粋な感じを受けました。私が担当させていただいた生徒は少し内気な男の子でしたが話しているうちに色々なことを話してくれました。その生徒は将来、自分がなりたい職業がほとんど決まっていて、本土に出て高校へ通い、そのまま大学で学びを深め、職業に就き、後々は自分の町に戻ってきて働きたいという話を聞かせていただきました。私の中学三年生のころと比べて、とてもしっかりしていると感じました。そして、私ももっと自分の将来について考えていなくてはと改めて考えさせられました。他にも、私の人生を中学生に話しながら振り返ったりしてこちら側としてもとてもいい機会を得させていただきました。授業が終わると中学生たちに給食を準備してもらい、中学生と交流しながら、小学校ぶりのとてもおいしい給食をいただきました。校舎内を歩いていると通りかかる生徒たちが元気に挨拶をしてくれたり話しかけてくれたりして育ちの良さも感じました。職員の方々や校長先生もたくさんお話をしてくださいました。午後からは現地の方の道前さんという方に案内をしてもらい、島前での放牧をはじめとし、観光名所となっている魔天崖や通天橋などを見せてもらいました。その中でも印象に残っている話は放牧をすることによって牛は足腰が鍛えられ、胃も強くなるためより良い牛が育つということと、馬と同じように牛も系統によって相場が決まったりすることでした。放牧をされている付近の場へ足を運ぶとそこら中に糞が転がっており驚きました。他にも牛が多すぎても少なすぎても問題があるということで頭数を調整していたりしていることが分かりました。島前での飼育個数は2016年現在では海士町、知夫村を差し押さえ、西ノ島町が一番多く、子取り用雌牛や売る予定の子牛も西ノ島が一番多いとのことでした。島前全体での飼養頭数の推移としては年々増加傾向にあり、2016年2月1日の時点では3209頭もの数にのぼっていることが分かりました。とても細かく説明してくれましたが牛の話の内容が深く、事前学習が足りずあまり内容を理解することが出来ず、あまり質問できなかったことは全体の反省点でありました。しかし連れて行ってくれた観光名所はとても圧巻で、東京では決して見ることでできないものでした。因みに放牧されている牛はおよそ700頭とのことでした。最終日の行政との交流ではたくさんのお話を学びました。西ノ島ではkeep3000というものを目標に掲げていて、これは常にこの島に定住している人の数の目標だそうです。現在の人口は約2960人で高齢化率が約4割と聞きとても高齢化が進んでいることが分かりました。西ノ島ではイカや岩ガキ、サザエをはじめと

した水産物に恵まれています。こういった資源を上手く活用し、西ノ島ブランドの確立に向け、多様な主体の連携による特産加工品開発に取り組んでいるそうです。ゆるキャラも活イカ活っちゃんというキャラクターがいました。島前中学校で食べた給食にもイカが使われた料理もありました。西ノ島では保育園が 2 つ、公私ともに一つずつあり、小学校と中学校も一つずつあり、一学年 20 人前後であることを聞きました。年々人数は減っているようで厳しい現状であること、keep3000 に向けて I ターン、U ターンがいかに重要か伝わってきました。他にも医療関係でも脳などの専門医にかからなくてはならない場合はドクターヘリで松江まで行かなくてはならないと聞き、とても大変であると思いました。しかし、子育ての助成は充実していて、医療費は 15 歳まで公費で出るため無料であるそうです。出産時などは本土の方へ行き、産むことになるのですが、その際の宿泊費もおよそ 3 分の 2 程度は賄われるそうです。西ノ島では若者が U ターンし帰ってくるまで様々な個所を整備し受け入れる態勢を整えているそうです。しかし、高齢化も進んでいるため、老人ホームが 2 件しかないのです。そういった方面にもお金を使い、整備を整えるとなるととても事がスムーズにはいかないということが分かりました。この町役場では反省点を活かし、自分たちで事前に西ノ島町について調べ、疑問に思うことをある程度考えて臨んだため、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

企画以外にもたくさんのイベントがありました。まず、海士町で行われたキンニャモニャ祭りに参加してきました。キンニャモニャ祭りは周辺の島の方たちも集まり、とても賑やかな祭りとなっていました。訪問した中学校の生徒もいて再び交流したりして、少しこの島前に馴染みを感じました。屋台の数は多くはありませんが美味しい料理、お酒、かき氷があり、十分にお祭りを堪能しました。キンニャモニャ祭りの締めは花火で、とても近くで見ることができました。東京の方が花火の質や量は高く多いのかもしれませんが、この島では一年に一度だけというプレミアに加え、距離が近いので大迫力の花火を堪能することができます。現地の方の反応を見てもこの花火は特別なものであるのだなと感じました。自由行動の時間では重要文化財に指定されている焼火神社に足を運びました。焼火神社では平安時代から全国に海上安全の神として知られているほどの歴史ある神社です。私が焼火神社に行った日は生憎天候が悪く、登るのにとっても苦勞し、着いたころには全身濡れてしまっていました。岩に囲われ覆いかぶさっている焼火神社を見て趣深く感じました。研修中は基本自炊でしたがみんながしっかりと動きやるべきことをやったので問題なく進めることができ、美味しい料理を作ることができました。地域の方と一緒にご飯を食べることもありました。道前さんには BBQ を振る舞っていただいたりもして、見ず知らずの人が大半の私たちにこんなに優しく、そしてたくさんのご馳走を振る舞ってくださりもしました。自由行動の時にサザエ丼も無事食べることができました。サザエそのものを食べるのが初めてでしたがこんなに美味しいものであるとは知りませんでした。他にも法政大学出身である地域の方の親御さんに車を貸してもらったり、天候が悪く 1 日延泊してしまったため、お食事を出していただいたりとか何かとサポートしていただき、地域の人の温

かさに感謝しかありませんでした。

この国内研修を通して私はとても多くのことを学び、改めて人と人の繋がり大切さに気付かれました。そして座学だけでは決して得ることのできない経験をたくさんすることができました。また、大学在学中が一番時間を自由に使うことができる時期だと思うのでとにかく現場に足を運び、より積極的に動いていろいろな地域に行くことが大切であると思いました。振り返っても私が住んでいる東京にはない良いところがたくさんあり、またぜひ島前、西ノ島町に行きたいと思いました。